

令和 3 年 6 月 17 日現在

機関番号：25406

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02436

研究課題名(和文) 慈円法楽歌における「二諦一如」についての基礎的考察

研究課題名(英文) The elemental Report of Tendai Dogmatics about Jien's Waka Poems I Works

研究代表者

石川 一 (ISHIKAWA, HAJIME)

県立広島大学・人間文化学部・名誉教授

研究者番号：80193283

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、新古今歌人慈円の作品分析のために、その特徴がみられる「法楽歌」に焦点を絞り、思想的基盤を解明するものである。家集『拾玉集』内の諸社法楽百首群には序・跋にも彼の宗教観・歴史観が展開されているが、天台仏教の要諦である「二諦一如」がどのように関わっているのかその関連を解析する。

「法楽歌」作品は法楽対象に応じて形態を変化させていて、例えば、石清水八幡宮と法華要文百首など。寺社縁起研究から一歩進めた思想体系を考究し、狂言綺語観から「二諦一如」を核とする思想・信仰を解明する。従来の「拾玉集」諸本分析だけでなく、「本地垂迹」に関する思想基盤、寺社縁起と歌論との相関に言及することが可能である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

慈円の作品分析には錯綜する「拾玉集」諸本分析の他に、法楽対象ごとに異なる百首形態、寺社縁起と「本地垂迹」、さらに「二諦一如」など天台の要諦など、表現意図が多岐に亘り、非常に難解な様相を呈している。その思想的基盤を解明し、表現の目指す宗教観を考究することは、中世における文学的到達を解析することに繋がる。

家集『拾玉集』収録歌六千首という膨大な作品を前に、種々の困難が横たわっていたと思われるが、その一端を解明することによって、中世歌人また歴史家の思考の支障となっていた慈円の「謎」を解明することの異議は甚だ大きいものと言える。

研究成果の概要(英文)：Jien's poetry has in his collection Shu-Gyoku-Shu(拾玉集). However, it is also true that this collection differs from the original, because it was arranged 100 years after Jien's death. In many previous studies, the prefaces and postscripts have been quoted without due consideration of the 100 individual poems. Because the meaning of "God Enjoyment" has gradually become clear, it is also significant to arrange the 100 individual poems in chronological order. Furthermore, due to the fact that Jien assumed the position of Head Priest of the Tendai-Sect four times, his poetry suggests inspiration from Tendai Dogmatics. Jien's temporal references can be classified into four periods: study, experimentation, skill achievement and reflection. The poetic work Onri-Gongu 100 Poems(厭離欣求百首) is from the reflection period. The concept of Nitai-Ichinyo(二諦一如) from Tendai Dogmatics is central here. This report focuses on the history and verification of Jien's poetry.

研究分野：中世和歌

キーワード：諸社法楽百首群 二諦一如 狂言綺語観 法華要文百首

## 1. 研究開始当初の背景

- (1) 慈円「法楽百首」にはそれぞれ序・跋が付されており、彼の宗教観や歴史観などが展開されているが、石清水八幡宮法楽の「法華要文百首」などの精選過程を辿ることで具体的な思考プロセスを解明しようと考えた。
- (2) 思想の核をなす「二諦一如」は天台密教の要諦であるが、その「二諦一如」観に至る思想体系を狂言綺語観から徐々に進展させつつ、考察してゆく。特に家集『拾玉集』における和歌観を解明する必要があることが予想できる。

## 2. 研究の目的

- (1) 慈円の歌人としての詠作期を、初学期・実験機・習熟期・自省期に分類し、承元期以降に集中する自省期の「法楽百首群」は日吉・北野・賀茂・四天王寺聖霊殿・春日などの法楽対象ごとに縁起・詠作意図などを精密に分析し、そこに存する祈願などを通して、各法楽百首を解明してゆく。
- (2) 法楽対象の神社縁起などから「本地垂迹」、「二諦一如」などに収斂させながら、中世における文学的な命題（表現、神道・密教の相関）を考察する。

## 3. 研究の方法

- (1) 天台密教に関しては、数多くの著述願文が収録されている『續天台集全書(密教3)』を精緻に分析を施し、彼の思想基盤を探る。
- (2) 同時に、多賀宗隼『慈圓全集』(七文書院・昭20)・同『慈圓の研究』(吉川弘文館・昭55)・赤松俊秀『鎌倉仏教の研究』(平楽寺書店・昭32)・同『續鎌倉仏教の研究』(平楽寺書店・昭43)などの研究書にも数多の資料が翻字されているので、それを博搜する。
- (3) さらに、辿り得るかぎりの仏典などを『大正新修大蔵経』で探し出し、叡山の伝燈である顯教・密教を考証する。

## 4. 研究成果

- (1) 『毘逝 別(上)』建仁三年 1203 夢想記  
「仏法王法ヲ成就シテ理国利民」
- (2) 『大懺法院條々起請事』建永元年 1207 発願文  
「済度彼怨霊扶助此朝家、唯在仏法之法力、専帰対治之治術」
- (3) 『天台勸学講縁起』承元二年 1208  
「吾宗傳教大師先徳、哀愍興法之無忒」
- (4) 『毎日可被守時刻次第』承元二年 1208  
「文字般若者、劫初梵王之所制也、三国字異、通国義同者也、梵漢和之三字先御練習、不可説御勤也」

- (5) 『厭離欣求百首・跋』 承元三年 1209  
「承元三年十月十四日明月心澄頓右禿筆詠廿八首經一宿了、翌日十五日之朝念仏之終詠七十二首全満百首訖、楚忽者寔聊爾数日之案惟同者也」
- (6) 『略秘贈答和詞百首和歌』 同上  
「以上百首大略併詠改了、乍百首入撰集之程計トテ奉納神居畢、具宥別草」
- (7) 『日吉百首』 建曆二年 1212 秋九月草～三年 1213 待三春記  
「片山寺に籠居ては二諦の道理より外に思続くる事なし、其道理を歌によまむと思けるなるべし、さてしも又かやうなればいまだ日吉に百首などよみて奉る事のなかりければにや、三度治山寄心於山王、数年興教容身於教門、今生知縁深来世能引導」
- (8) 諸社法樂百首群 ( 建保六年 1218～承久二年 1220 )  
「定翻今生世俗文字之業、為当来讚仏法輪之縁者歌」( 文集百首・跋 )  
「今以麤言深転法輪、雖似狂言綺語觀又通実道」( 八幡百首・序 )  
「願はくは此浅き狂言綺語にて、深き讚仏乘転法輪の道へ返し入れ給へとなり」( 四季題百首・跋 )  
「和歌者我朝之風俗也、吟詠者雅意之所作也、今染二諦之色於意識、忽著三業之悟於法樂、狂言又狂言、此声是觀音実語亦実語」( 賀茂百首・序 )
- 上記の例の如く、時系列に配することにより、「二諦一如」「煩惱即菩提( 仏法王法相 )」などの道理に収斂してゆく。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 石川一	4. 巻 24
2. 論文標題 慈円「略秘贈答和詞百首」検証	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 奈良大学大学院研究年報	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石川一	4. 巻 47
2. 論文標題 慈円「略秘贈答和詞百首」考	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 奈良大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石川一	4. 巻 44
2. 論文標題 慈円『略秘贈答和詞百首』考－「四重秘釋」を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 仏教文学	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石川一	4. 巻 3
2. 論文標題 「法楽」という宗教空間	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 名古屋大学HERITEX	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石川一	4. 巻 46号
2. 論文標題 「厭離欣求百首」検証	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 奈良大学紀要	6. 最初と最後の頁 269 - 280
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川一	4. 巻 23号
2. 論文標題 『拾玉集』所収百首歌の序・跋に見る「歌論」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 奈良大学大学院研究年報	6. 最初と最後の頁 1 - 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川一	4. 巻 16
2. 論文標題 「マメヤカノ家ヨミ」雑感	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 4 - 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 石川一
2. 発表標題 慈円の「二諦一如」についての追考
3. 学会等名 仏教文学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川一
2. 発表標題 王朝の恋歌
3. 学会等名 台湾・輔仁大学(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川一
2. 発表標題 浮世絵と和歌との関係について
3. 学会等名 ポーランド・クラクフ国立博物館「女」展講演(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川一
2. 発表標題 慈円の「二諦一如」についての考察
3. 学会等名 和歌文学会6月例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hajime ISHIKAWA
2. 発表標題 Jien's Petry and Tendai Dogmatics, focusing on Prefaces and Postscripts of several 100 Poems in Shu-Gyoku-Shu
3. 学会等名 College de France(招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 石川一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 376
3. 書名 仙洞句題五十首・水無瀬殿恋十五首歌合 全注釈	

1. 著者名 石川一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 456
3. 書名 御裳濯和歌集 全注釈並びに資料と研究	

1. 著者名 浅田徹ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 花鳥社	5. 総ページ数 633
3. 書名 和歌史の中世から近世へ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------